

普及活動情勢報告（令和3年5月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

カラシナを播種しました ～露地ショウガ緑肥試験～



播種にもコツがありました

4月22日に㊦生姜生産組合生産者ほ場で、ショウガ根茎腐敗病に対する緑肥(カラシナ)の抑制効果を検証するため、試験ほを設置しました。このほ場は前年根茎腐敗病が発生し、今年休耕するほ場です。カラシナは辛味成分(グルコシノレート)を含み、土壌にすき込むことで、土壌病原菌低減効果が期待されています。当日は種苗メーカー担当者指導のもと、農協と農家と共に播種しました。農家から「反当たり1kgの播種量と少なくて驚いたが、播種方法のポイントを知って良かった」など声がありました。

今後、普及所はカラシナの生育および菌密度調査を実施し、ショウガ根茎腐敗病に対しての効果を検証していきます。

今年もオクラが始まるぞ ～JA高知市介良支所オクラ部現地検討会～



5月下旬頃には取れそうやねえ。

5月6日、JA高知市介良支所オクラ部の現地検討会が開催され、生産者8名が参加しました。介良から春野地域にかけて全部員のほ場を巡回しました。普及所からは、今年の気象概況と今後の栽培管理について説明しました。

すでに開花が始まっているほ場もあり、参加者は追肥やトンネルの換気時期などについて積極的に情報交換を行っていました。

普及所では今後も、オクラ部の活動を支援していきます。

水稻安定栽培に向けて ～JA高知市東部稲作部通常総会～



熱心に耳を傾ける生産者

5月7日、JA高知市高須支所で、東部稲作部通常総会が開催され、生産者9名の参加がありました。普及所からは今年の水稲の生育概況、よさ恋美人の今後の栽培管理の注意点、R3年度現地実証ほの計画について報告しました。昨年、登熟期の長雨の影響で発生した籾の充実不足に対する質問が多く出され、登熟と日照不足の関係を説明することで、登熟期の天候が充実に大きな影響を与えることについて理解が深まりました。

普及所では今後も、総会や現地検討会などで、生産者のニーズに応じた情報提供を行っていくとともに、米産地の振興に取り組んでいきます。

中山間地の担い手確保に向けて ～JA 高知市特作部会役員会での聞き取り調査～



役員会の様子

普及所では、生産者や関係機関と連携して「土佐山の担い手確保検討会」を立ち上げ、土佐山地区の担い手確保に取り組んでいます。

今年度の取組の一つとして経営モデルの作成を行う事としており、5月10日に開催されたJA高知市特作部会役員会に出席した生産者6名からタケノコ、イタドリ、四方竹について作業内容や労働時間の聞き取り調査を行いました。

今後は、聞き取り内容を参考にして、土佐山地区における経営モデルを作成し、中山間地の担い手確保につなげて行きます。

低コストで始める環境制御技術 ～UECS 対応型環境制御器現地検討会～



機器を見ながら意見交換を行う参加者

5月20日に、UECS 対応型環境制御器導入ほ場で現地検討会が開催され、生産者7名、営農指導員6名、メーカー2社4名、普及員4名が参加しました。UECS 対応型環境制御器とは、無料で公開されているユビキタス環境制御システム(通称:UECS)を活用した環境制御器です。普及所からは、導入事例や制御の方法について紹介しました。その後、メーカーから導入コストなどについて情報提供がありました。

生産者からは、「少しずつ環境制御を始めてみたい」「自分のほ場でどんなことができるか知りたい」といった声があり、活発な意見交換が行われました。

普及所では、今後も環境制御技術や機器などの情報を生産者に発信していきます。